

トップインタビュー

マーコフ・プロセシーズ・インターナショナル マイケル・マーコフCEOに聞く



AIJ投資顧問事件で緊急来日 定量デューデリ活用で不正検知

ファンド分析専門
のマーコフ・プロセ
シーズ・インター
ナショナル(MPI)
のマイケル・マーコ
フCEOは、AIJ

投資顧問事件を受けて緊急来日。実際に3年前にAIJ投資顧問のファンド分析した経験や米国での類似事件を分析した経験を基に、早稲田大学で特別講演した。マーコフ氏は、ニッキンの単独インタビューに応じ、「ファンドの不正を検知するには定量デューデリジェンスが有効だ」などと語った。

——来日の目的は。

早稲田大学ファイナンス研究センターと共催で特別講演する。実際に3年前に日本のあるクライアントのご依頼によりAIJ投資顧問のパフォーマンスを分析した結果や、米国の同様の事件などのケーススタディーも説明する。また、日本の顧客にも当社の対応を個別に説明したい。

——米国の事件とは。

マドフ詐欺事件が有名だ。当社では、2008年12月に事件が発覚する2年前の2006年、実際にマドフのパフォーマンスを分析した結果、彼らの投資戦略に沿った運用が実際には行われておらず、このファンドはおかしいという結果がでた。この危険信号はすぐ依頼されたクライアントに提供し、注意を喚起していた。

——AIJ投資顧問については。

3年前、東京事務所にクライアントから依頼があり、当社の定量デューデリジェンスのスタイル分析でAIJ投資顧問の運用パフォーマンスを分析した。その結果、彼らの投資戦略に基づき複製した我々の複製パフォーマンスと、実際の彼らの運用実績には大きな乖離(かいり)がみられ、不可解なファンドであるとクライアントに報告した。AIJ投資顧問とコンタクトを取り、彼らの具体的運用内容を詳しく聞いてみる必要があると指摘していた。

——スタイル分析とは。

ファンドの保有情報を知ることによってそのポートフォリオを複製し、過去のパフォーマンスを作成、実際のパフォーマンスと比較し検証する定量デューデリジェンスのことだ。ファンドマネジャー(FM)の投資行動と同じ経路をたどることで、彼らの投資方針が実際の運用実績と合致しているか確かめていく。例えば、FMがエマージング市場の中国に70%、東ヨーロッパに30%投資したと言ったらそのパフォーマンスを複製し実際の運用結果と照合してみる。結果、ファンドの収益はエマージング市場からではなく不動産からの収益からではないかという結果がでてくることがある。別の例ではレバレッジによる高いリスクをとって投資しているケースもある。我々は稀なケースも含めて100以上のファクターを使って分析しているが、全くそれらに当てはまらないことがあり、それはいわゆる危険信号の発生なのである。

——ファンドの不正は検知できるのか。

本来我々の技術は、悪いファンドを見つけることではなく、良いFMや運用会社を選別するためのもの。何千本ものプロダクトの中から、優れた運用スキルを持ったファンドを見つけ出すのが目的だ。しかし、公表している投資方針から逸脱した運用をしているファンドがあったら、それは定量デューデリジェンスですぐ判明する。何千本ものファンドの中から注意信号を発しているファンドを絞り込み、更に精密に調査していくことが可能だ。スキルの高い専門家が定性分析で1本調査するのに数日要するのに対し、我々は何百本ものファンドを短時間で効率的に分析できる。不正行為の検知ツールとしても非常に有効だ。

MPI=本社・米国ニュージャージー州サミット、役職員40人、海外4拠点(ロンドン、パリ、モスクワ、東京)。1990年、マイケル・マーコフ氏(ロシア出身、80年ウクライナ共和国ハリコフ州立大数学修士号取得)が設立。顧客は年金基金、運用会社、銀行、証券など世界20カ国に約300社。